

【大規模建設事業評価監視委員会でのご意見及び対応方針】

■ 【事前評価】(仮称)新潟駅の拠点性向上(拠点駅アクセスの向上)(第2期)

項目	委員のご意見	評価監視委員会のご意見を踏まえた今後の対応方針
① 意見・要望 (菊野委員)	<p>整備計画の指標として掲げた「乗換えによる歩行者損失を減少させる」は、整備計画の最終年度である令和9年度を待たずに早期に整備が完了されると目標が達成されるため、指標として設定するのはいいが令和9年度までの指標が他にも設定してもいいのではないか。</p>	<p>整備計画の指標として掲げた「乗換えによる歩行者損失を減少させる」は現在の仮設通路の設置でも効果が出てきているため、着実に整備を進めていきたいことから再度、設定させてもらった。新型コロナウイルスの発生などこれまでになかった社会情勢の変化があり、この先も確実に見通せない部分があるため、まずはこの指標の達成に向けて事業を進めていきたい。</p>
② 意見・要望 (根岸委員)	<p>整備計画の指標として掲げた「新潟駅などの広域交通インフラの利便性が以前と比べて向上していると思う市民の割合」は現在の工事中の状態アンケートを取っている。工事前と工事後の比較をした方が良くと思うので、アンケートの取り方を工夫してはどうか。</p>	<p>当該指標については、新潟市総合計画2030の政策指標に基づいており、毎年アンケート調査を実施することから、市民が感じていることをきめ細かく把握することができるため、調査結果の変化について注視していきたい。</p>
③ 意見・要望 (紅露委員)	<p>新潟駅の整備で大きなインパクトがあるのは、鉄道とバスの接続や点在しているバス停の集約による歩行距離の短縮による利便性の向上である。利便性が向上した効果はどういった形で現れるのかなど調査を工夫した方がよい。</p>	<p>新潟駅周辺整備事業について、定量的な評価を行う予定であり、その中で社会情勢の変化を踏まえながら、鉄道とバスの接続や点在しているバス停の集約による歩行距離の短縮による利便性の向上及びそれによる効果などを検証できるよう、適切な評価手法や項目などについて検討していきたい。</p>